

御笠の森

[表のキャプション]

かつて大きな森だったこのささやかな木立には由緒がある。日本最初の史記の一つに皇后に関してその名が記され、また崇敬された詩人が恋の詩を詠んだ場所である御笠の森は、太宰府の遠い過去とつながる静かな場所である。

[裏の解説]

この森の名前である御笠の森とは、"帽子の森"を意味する。神功皇后（伝承上の生没年は169-269年）の伝説に由来する。神功皇后がこの森の近くを旅していたとき、突然のつむじ風で円錐形の帽子が森のほうに飛ばされたという。この話は、日本最古の史料である8世紀の史記、日本書紀に記されている。

8世紀、奈良の都を行き来する役人たちは御笠の森を通り、その美しさと静けさに感嘆した。中には歌を詠みあげるものもあり、そうした人々のうちの一人、大伴百世（おおとものももよ）は8世紀の大宰府政庁の高官であった。百世の恋の歌は、現存する日本最古の歌集である『万葉集』に収められている。歌の中で、百世は最愛の人への誠実な献身を誓っている。

思はぬを

思ふと言はば

大野なる

御笠の森の

神し知らさむ

私が告白した愛が本心でないとしたら、

大野にある御笠の森に宿る神によって、

私の偽りはきっと見抜かれているだろう

現在、御笠の森は神功皇后を祀る小さな祠と、大伴百世の詩が刻まれた大きな石がある静かな憩

いの場となっている。